

今回の
テーマは

たっちコラム

vol. 5

スマホ育児、ワンオペ育児など現代の子育てとは ～今どきの子育ての楽しさと難しさ～ 前編



ニュースなどで時折目にする「スマホ育児」や「ワンオペ育児」という言葉。ドキリとしてしまうママさんもいらっしゃるのではないのでしょうか？今回は、現代の子育ての特徴や対策について、新潟大学准教授の田中さんにお話をうかがいました。
(前半・後半に分けてご紹介します。)

教えていただきました

田中 恒彦さん

臨床心理士
新潟大学 教育学部
教育科学講座 准教授
現在、5歳の娘を育児中



現代の育児の特徴は？



司会 最初に、「スマホ育児」や「ワンオペ育児」などの現代の育児について、特徴を教えてくださいませんか。

田中 ここ10年～15年、20年弱ぐらいでさまざまなところで子育てにおける環境が大きく変わってきていると思います。スマホ育児もその1つですが、その前に現代の育児の環境について、3つのポイントを挙げておきたいと思います。

1つは少子化で子どもの数がなくなったこと、新規の宅地分譲などが進み、子どもがいる地域とない地域に分化が進んだことが挙げられます。2つ目は核家族化に伴って、夫婦が2人で子育てを完結させることが求められるようになってきたこと。つまり、おじいちゃん、おばあちゃんや、周囲の方、地域の方々などが育児をサポートすることが難しくなっていること。もう1つが、様々なツール(道具)、特にスマホなどの情報通信ツールの発達です。この3つが、現在の子育てに関して大きく影響を与えたものだと思います。

司会 スマホ育児は、環境の変化の中の一つなんですね。

田中 “スマホ育児”という現象をとっても、この3つのポイントが大きく絡んできていると私は考えています。なぜ子どもをスマホに向けさせる必要があるのかを考えたときに、例えばママやパパが、家事などから十分に子どもに対応する時間がなく、スマホに子守を頼まなければならないということが起こっています。たとえ、親御さんが家事に時間をとられていたとしても、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいはご近所の方たちが集まって子どもたちと遊んでくれているならば、その間に親御さんたちが食事を作ることもできるはず。地域の子育てコミュニティの弱まりや核家族化が進んだ結果、育児をする人員不足につながっていると考えると、実は「情報機器が発達したからスマホ依存になった」というほど単純なものではないのです。

司会 昔だと、おじいちゃんやおばあちゃんが家にいたので、複数で育児ができていたのに、今は1人で対応する方が増えているということでしょうか。

(現代の育児の特徴は？ 続き)

田中 昔の環境だと、おじいちゃんやおばあちゃん、あるいはご近所さんとのお付き合いも含めて、大人の目が行き届きやすい環境になっていたのだからというのは推察できます。

司会 その様な状況で、周りの手をうまく借りられるようになるための方法がありますか。

田中 行政などを含めた大きな対策と、個人の対策と2つの方向があります。大きな対策の方は、どうやって地域の交流を活発化させるかということが課題だと思います。相互依存的に、お互いに子育てを地域で担い合えるような施策や政策を行政がどう立てていくのかが一つの課題になります。地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちにとっても、血縁ではなくても子どもと触れ合う時間は意味があると感じてもらうなどです。

司会 個人としてはどのように対策するといいでしょうか。



実は親の方がスマホに依存している

司会 0～2歳くらいの子どもの、スマホで遊ばせたり、ちょっと泣いているときにスマホを見せたりという育児の仕方が出てきていると思いますが、それについてはどんなお考えをお持ちですか。

田中 例えば、子どもが泣いているときに困っているのは子どもではなくて、親本人やご近所が困っているとも考えられると思います。大人が困ってしまう問題を解消するために行う対処、それがスマホを利用することにつながるということですね。それは子どもがスマホに依存しているのではなくて、親がスマホに依存して子育てをした結果として起こっているだけなのです。

司会 依存しているのは、親の方なんですね。

田中 そこで親御さんの責任だと短絡的に考えてしまうのはとても危険です。そうではなくて、そ

田中 個人としての対策は、家庭の中に育児サポーターとか、家事代行サービスを入れることなどが考えられます。人手が足りないときにサポートを利用することに対する抵抗感を減らしていき、家事をアウトソーシングをしていくことによって、子どもに触れる時間を増やしていくことなどが重要だと思います。

司会 家事を別な方にお願ひできれば、子どもと接する時間も増えますよね。

田中 ただ、アウトソーシングを利用するのに抵抗があったり、導入できない事情があるご家庭もあつたりします。できないご家庭では、主に家事を担当している人だけでなく、家族全員で問題を共有し合いながら、どうすれば子どもに対して時間を掛けられるかについて問題を解決する方向で話し合うことが必要だと思います。



の環境自体が、子育てに関する問題をうまく吸収できるコミュニティとして機能不足である、あるいはそのご家族として対処ができていないという問題がそもそもあると考えた方がいいのではないのでしょうか。

司会 その家族の子育てをする環境自体を見ていく必要があるのですね。

田中 例えば、子どもがもっと遊びたいとぐずっている時、ご近所の方が「そんなに泣いているのだったら、うちにしばらく遊びに来てもいいよ」と言ってくれば、スマホを使うことはしなくていいですよ。スマホが果たしている役割を、他の人が果たしてくれる環境が整えば、自然にスマホ育児の問題は減っていくと思います。

ワンオペ育児は、パパ・ママの問題だけではない

司会 現代の子育てのもう一つの問題として、一人きりで育児をする「ワンオペ育児」が挙げられています。お考えをお聞かせください。

田中 ワンオペ育児をパパさんだけの問題にするのは酷だと思えます。これは社会環境の問題もすごく大きいと思えます。それを許容するような社会なのだとすることを踏まえなければいけないと思えます。

司会 ワンオペの原因はパパ・ママの問題だけではないということですね。

田中 ここでも、そのご家族のまわりの、おじいちゃんやおばあちゃんを含めた家族の問題でもあるし、その方が住んでいる地域の問題でもあると考える方がいいと思えます。

乳児期、幼児期の子どもをお持ちのご家庭にとっては、子どもを1人でみるというのは、子どもの時間に自分を合わせていく大変さがあります。ワンオペ育児の負担感を高めている部分だと思えます。

司会 だからこそ、一人だけで抱えず、他の人に助けを求めることが必要なのですね。



田中 アウトソーシングなどを有効活用していくというのはとても重要ですし、ワンオペにならないようなグループ、集団を作っていくことも大切だと思います。また、社会全体がセーフティネットとして機能するためにも、血縁関係だけで完結させないこともとても大切だと、私自身は考えています。

司会 ワンオペ育児を解消するために、簡単に始められることはありますか？

田中 ワンオペ育児について、悩み合える人たちが集まればワンオペではなくなりますよね。〇〇さんに代わりに買い物に行ってもらって、その間はその子どもたちを遊ばせておいて、各自、それぞれの家の夕食を作って持って帰るなどすればワンオペではなくなると思うのです。かつては、それが井戸端会議的にできていたと思いますが、そういったつながりができるようになれば、ワンオペ育児という問題は解消されていくと思えます。

(前半終了)

